

# 人材育成フレームワークの活用事例



## ■人材育成事例紹介 case2.

### アジャイル開発演習(スクラム)

ITサービスインテグレータ様 新入社員 18名

#### お困りごと

- ・開発モデルとしてアジャイル開発手法を取り入れたいが社内での事例が少ない
- ・コロナ禍のためオンライン研修で実施したい
- ・新入社員に、最新の開発手法を体験させたい

#### 実施内容

##### Sprint0

集合研修

##### 研修の目的

- ・アジャイル開発(スクラム)による開発の流れを習得する。
- ・オンライン環境での活発なコミュニケーションの取り方を習得する。



##### Sprint1

集合研修

##### 研修のポイント

- サーバー環境としてAWSのEC2サービスを利用してWebサーバーとDBサーバーを構築する。
- スクラム開発の習得目標を段階的に設定し、スプリントレトロスペクティブで振り返りを行うことによってアジャイル開発のマインドやスクラム開発の流れを習得する。
  - ①スクラムのスプリントの流れを習得する。
  - ②オンライン環境でスクラムのスプリントの流れを実践する。
  - ③レビューからDoneまでの流れをより強化して開発を実践する。
  - ④ユーザーストーリー(要件分析)やテスト作業をより強化して品質を意識した開発を実践する。
- オンライン研修時に集合研修と変わらぬコミュニケーションの活性化を実現する。
  - ・集合研修でオンライン研修を想定した環境。
  - ・ツールを使用し、スクラムのスプリントの流れを習得する。
  - ・サブ講師がスクラムマスターとして開発チームをサポートし、新入社員達にコミュニケーションのノウハウをアドバイスすることによって発言の活性化を図る。
  - ・集合研修で学んだコミュニケーション手法を用いて積極的に発言をする。
  - ・発言に対して必ずリアクションをすることで、共感を促す。

##### Sprint2

オンライン研修

##### Sprint3

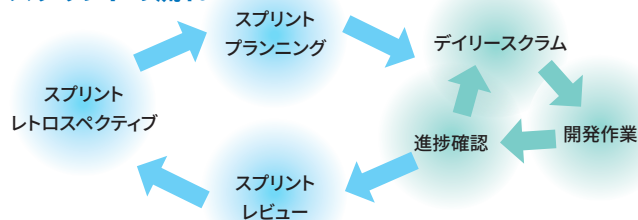
オンライン研修

##### Sprint4

オンライン研修

##### 成果発表会

#### スプリントの流れ



#### スクラムチーム

プロダクトオーナー

スクラムマスター

開発チーム



メイン講師



サブ講師



新入社員

#### 教育担当者の声

- ・各スプリントでスクラムについて段階的にポイントを学習し、スプリントレトロスペクティブで振り返ること(KPT法)で反省点を生かして改善策に挑戦することによって、スクラムによる開発の進め方を効率的に習得することができた。
- ・集合研修とオンライン研修(ライブ配信)のハイブリットで実施したが、集合研修時にオンライン研修の環境を想定して演習を進めることにより、オンライン研修においても集合研修と同様に活発なコミュニケーションをとることができた。オンライン研修でも十分な教育効果が得られたと思う。
- ・デイリースクラムと夕礼時に各メンバーがチェックイン・チェックアウトを行うことでプライベートを含む現在の自分の気持ちや調子を発言した。これによりメンバーのお互いの様子を知ることができ、コミュニケーションの活性化につながったと考えられる。